

「大丈夫。いつてらっしゃい。」

北野小学校長 丹羽 郁人

「ママがいい！」と、泣いて母親から離れられない日もあったかもしれませんが。子供は大人に「依存」するものなのです。

「自分でやる！」と言い張って、大人の助けを拒否する日もあったかもしれませんが。これは、ひとつの「自立」です。

卒業を迎える百十六名の北野小の子供たち。あなたたちは、そんな「依存」と「自立」を、行ったり来たりしながら、大きくなってきました。

ときには大急ぎで。

ときにはゆっくりと。

そして、自分の歩幅で。

みんなは大きくなったのです。見上げるほどに。

その歩みに胸を張りましょう。



そして、その歩みには、実に多くの方の理解があり、かわりがあり、支援があったのを忘れてはいけません。

転出したり、退職したりされた先生方を含め、本当に多くの先生方が、あなたたちの成長に関与していただきました。六年間の担任の先生方はもちろん、授業、部活動、委員会、クラブ活動、通学団、保健室……さまざまな場面で関わっていただきました。教職員だけではありません。地域の方、ボランティアの方、育成センターや子供の家の方。そのほか、さまざまな場面で、本当に多くの方が直接的、あるいは間接的に関わり、あなたたちに接していただきました。

そして、その土台には、お父さん、お母さんをはじめ、家族の存在があったことをしっかりと胸に刻んでおきなさい。

叱られたこともあったでしょう。悩んだこともあったかもしれない。友達とけんかしたことも、けんかしてあやまれなかったことも、あったに違いありません。いろんなトラブルはあるんです。

でも、そのトラブルを学びにかえ、現在に至っている。それこそが、あなたたちの歩みの確かさなのです。

関わったすべての「人」・「もの」・「こと」に感謝をしてほしい。そして、自分の歩みに、どうぞ、どうぞ、胸を張ってほしい。

三月十八日（金）卒業式。あなたたちの卒業生全員は、自分の手で次のステージの扉をあけ、自分の足で歩んでゆく。その逞しい歩みを嬉しく思います。

百十六名の旅立ちです。

今までの学びの歩みを噛みしめて、

次のステージへ――。

「大丈夫。いつてらっしゃい。」

(二〇二二・三・一八)

